



業を支えているという部分が頭に残っています。

今回の漏水事故では、近隣の河川からの取水や企業の備蓄などの備えによって、水不足の影響が最低限に抑えられたとのことでしたが、万が一に備えた準備の必要性を改めて強く感じました。

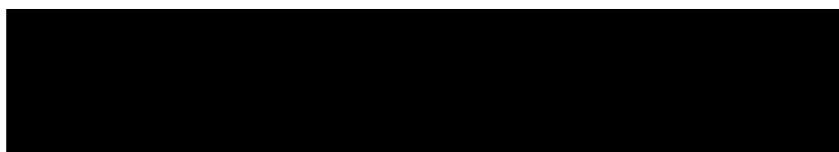
また、平山先生から、維持管理の思想が入っていないとお言葉もありました。明治用水頭首工は、代替施設がない「止めることができない」施設となっており、徹底的な点検が困難とのことでした。

この維持管理の考え方については、我々建設業界にとっても、大きな問題だと感じています。多くの社会インフラが、点検や改修が必要な時期を迎えていますが、人員やコストなど様々な要因で対応が進んでいない状況だと思います。DXを活用した点検技術や、新築・改修にあたっての長寿命化技術の開発など、業界を挙げて取り組んでいるところです。

いざ災害が発生した場合に、応急復旧工事や被害状況調査、その後の本復旧など建設業界の重大な使命の一つと認識していますが、我々が災害の当事者となった場合には、どこまで対応ができるかは未知数の部分が多くあります。この中部防災推進ネットワークの皆様と地域の具体的な課題を共有し、意見交換をしながら、備えを強化していきたいと思います。

例えば、日建連が調達をお手伝いできる資機材の事前協議やその運搬にかかわる協力体制など、意見交換ができればと思います。

メンバー各位からの日建連に対するご要望等があれば、ぜひお聞かせいただければと思います。



---

## 2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

---

今回掲載するイベント等はありません。

---

## 3. 編集後記（事務局・協力団体のひとこと）

---

中部防災推進ネットワークに協力団体として参加しております、静岡県危機管理部の■■■■と申します。

私は、本年度から危機管理部に配属となり、本ネットワークでは、参加されている団体の方々との意見交換で、防災に関して勉強させていただいております。

静岡県では、東日本大震災が発生した3月11日を含む10日間を『津波対策推進旬間』と定めており、県内各地で津波対策に関する避難訓練等が行われます。発生が危惧される南海トラフ地震・津波や激甚化・頻発化している水害・土砂災害から命を守るためには、リスクを正しく知り、適切なタイミングに、適切な場所へ避難することが重要であることから、静岡県では、一人ひとりが「いつ」「どこ」に避難するかを事前に整理する『わたしの避難計画』という事業を推進しております。

また、2月16日からは、インターネット上で『静岡県地震防災センター』を疑似見学できる「デジタル地震防災センター」を開設しました。この中では、地震、津波、風水害の災害を疑似体験できるVR映像も公開しています。

これからも、様々な防災対策を進めてまいります。

